

第2章 通行量調査

2-1 地地区別通行量調査結果

通行量調査位置を図2-1に示した7地区において実施した。

次頁以降に各地区の通行量調査結果と過年度調査結果(平成16年度以降)を比較した。

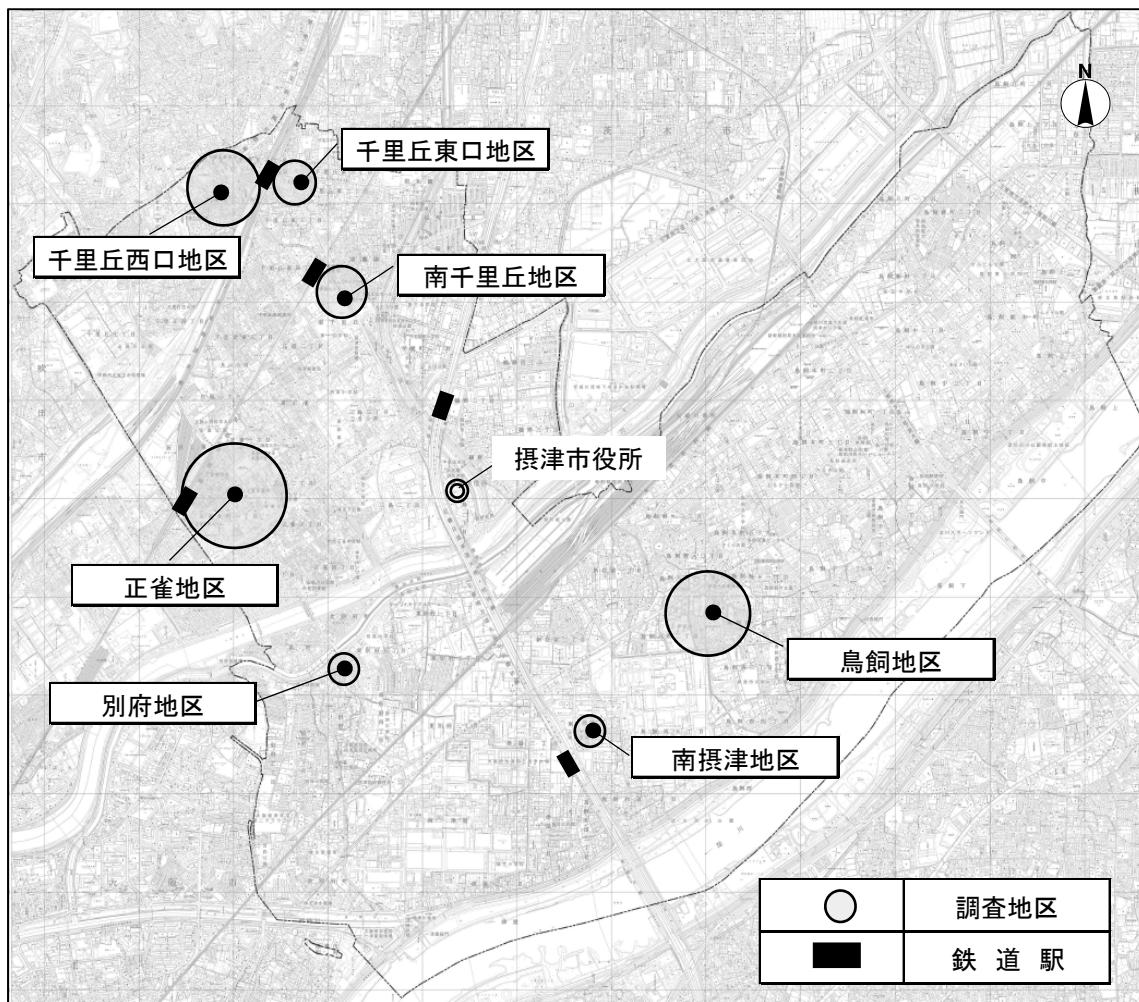


図2-1 通行量調査位置図

(1) 千里丘西口地区

千里丘西口地区は図2-2に示すJR千里丘駅西口に広がる「ことぶき商店街」、「千里丘商店街」で形成された地区である。

通行量の過去10年の経年変化をみると、平成22年3,013人をピークに減少となっている。

今回実施の調査では、前回調査より400人程度減少しているが、平成28年3月に「健都すこやか通り」が開通したこと、今回調査時の天候が荒天であったことが影響していると考えられる。

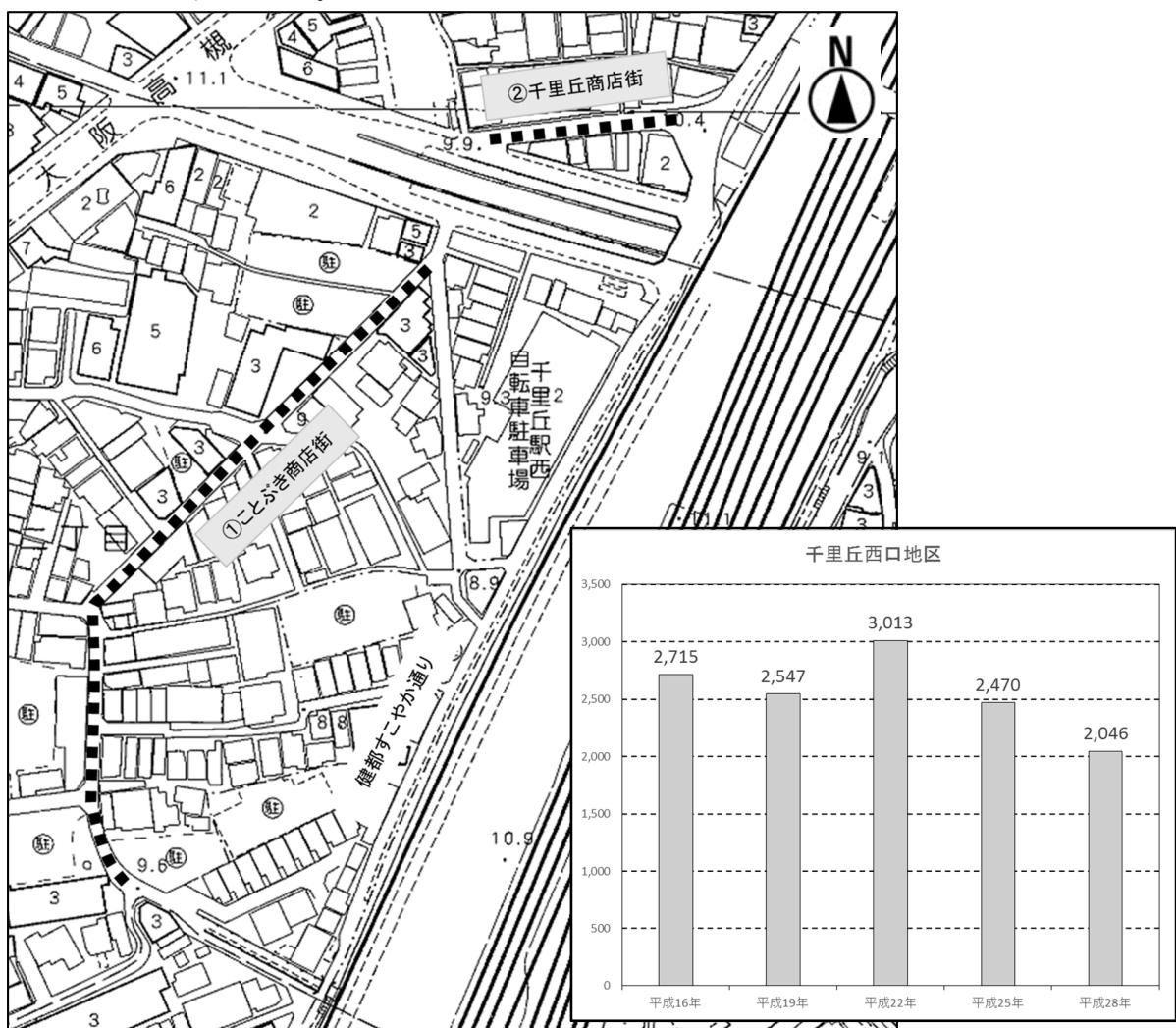


図2-2 千里丘西口地区位置図と通行量経年変化

①ことぶき商店街

●経年変化（調査結果）

千里丘2丁目内の南北に結ぶ、(府)正雀停車場線と接続する商店街であり、主に個人商店で形成されている。

道路幅員は3m程度と狭小幅員でありながら、自動車の通行が一方通行規制があるが可能である。

通行量は平成22年をピークとして減少しており、前回調査時と比較すると約470人の通行者が減少している。

これは平成28年3月にJR東海道本線西側沿いに「健都すこやか通り」が開通し、開通前まで千里丘3丁目方面へ向かうには「ことぶき商店街」を通行する必要があったが、「健都すこやか通り」の開通に伴い、「ことぶき商店街」を通行しなくても行き来ができるようになったことが要因として考えられる。

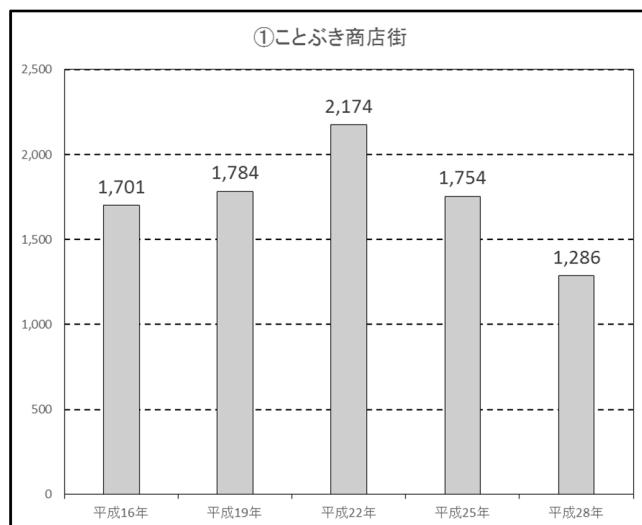


図2-3 ことぶき商店街 通行量経年変化



写真 ことぶき商店街

●予備調査（通行流動簡易把握）結果

今回の通行量調査では、経年変化調査以外に観測地点を変えずに通行流動の把握を行うための調査を実施した。

1) 南から北方向を目指す人の流れ

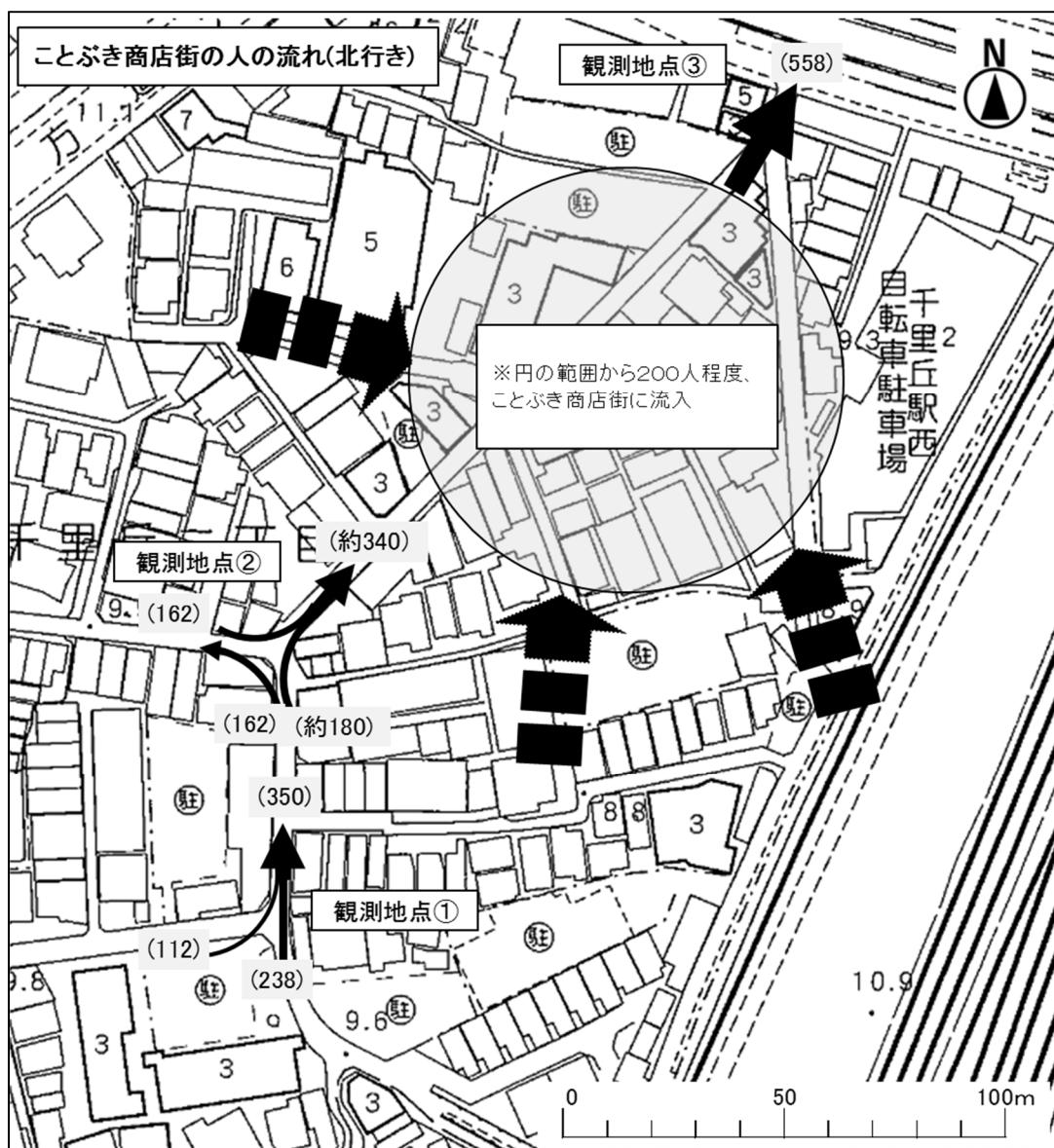
「ことぶき商店街」を南から北方向を目指す人の流れ（流動図）を図2-4に示す。

「ことぶき商店街」の南側に位置する観測地点①では350人が通行していますが、観測地点②では半数近い162人が西側の(府)大阪高槻京都線へ向かっていると推測される。

また、観測地点②で約340人の通行者が北方向を目指していますが、(府)正雀停車場線と接続する観測地点③（商店街北側）では558人が通行しており、観測地点②との間で約200人の差異が生じており、商店街内での滞留や接続する道路からの流入が多いと推測される。



写真 観測地点③付近（「ことぶき商店街」北側付近）



2) 北から南方向を目指す通行流動

「ことぶき商店街」を北から南方向を目指す通行流動図を図2-5に示す。

観測地点③からの流入通行量は526人となっており、前頁で述べた流出通行量と大きな差異はない。

観測地点①と②で其々約1/3の通行者が西側へ流出し、特に観測地点②では流出通行者の約2倍の通行者が「ことぶき商店街」へ流入してきており、南から北方向を目指す通行流動とは異なった流動となっている。

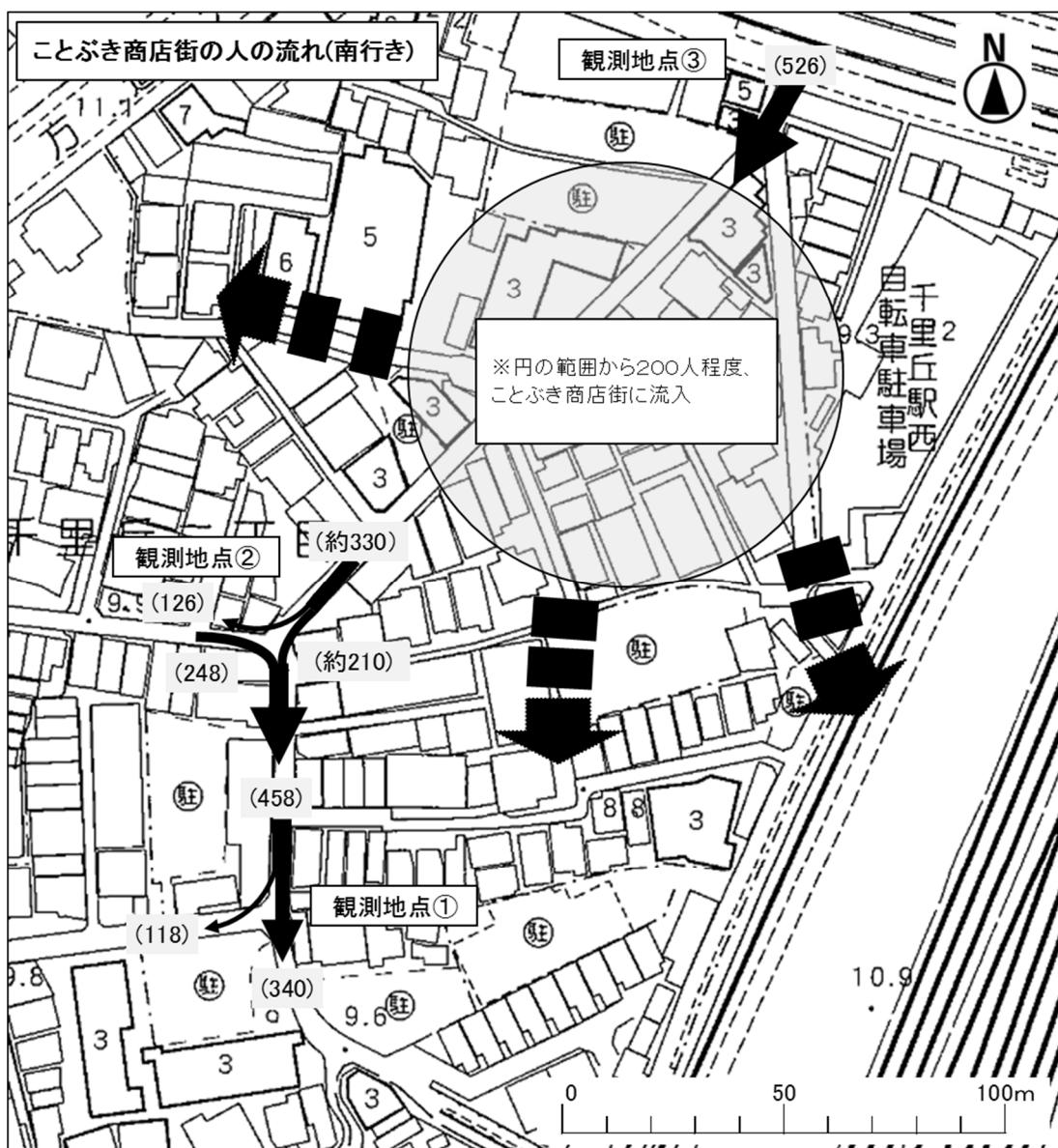


図2-5 ことぶき商店街(北⇒南) 流動図

3) 「ことぶき商店街」の人の流れ

「ことぶき商店街」の北及び南からの通行状況をまとめた流動を図2-6に示す。

上述の流動を勘案すると観測地点②（西側）と観測地点③（東側）を結ぶ流動が出来上がっており、観測地点①と観測地点②（北側）では大きく通行者数が異なっており、この間で他の道路を利用して目的地を目指していることが伺える。

のことから、「ことぶき商店街」を通り抜ける歩行者は少ないことが推測される。

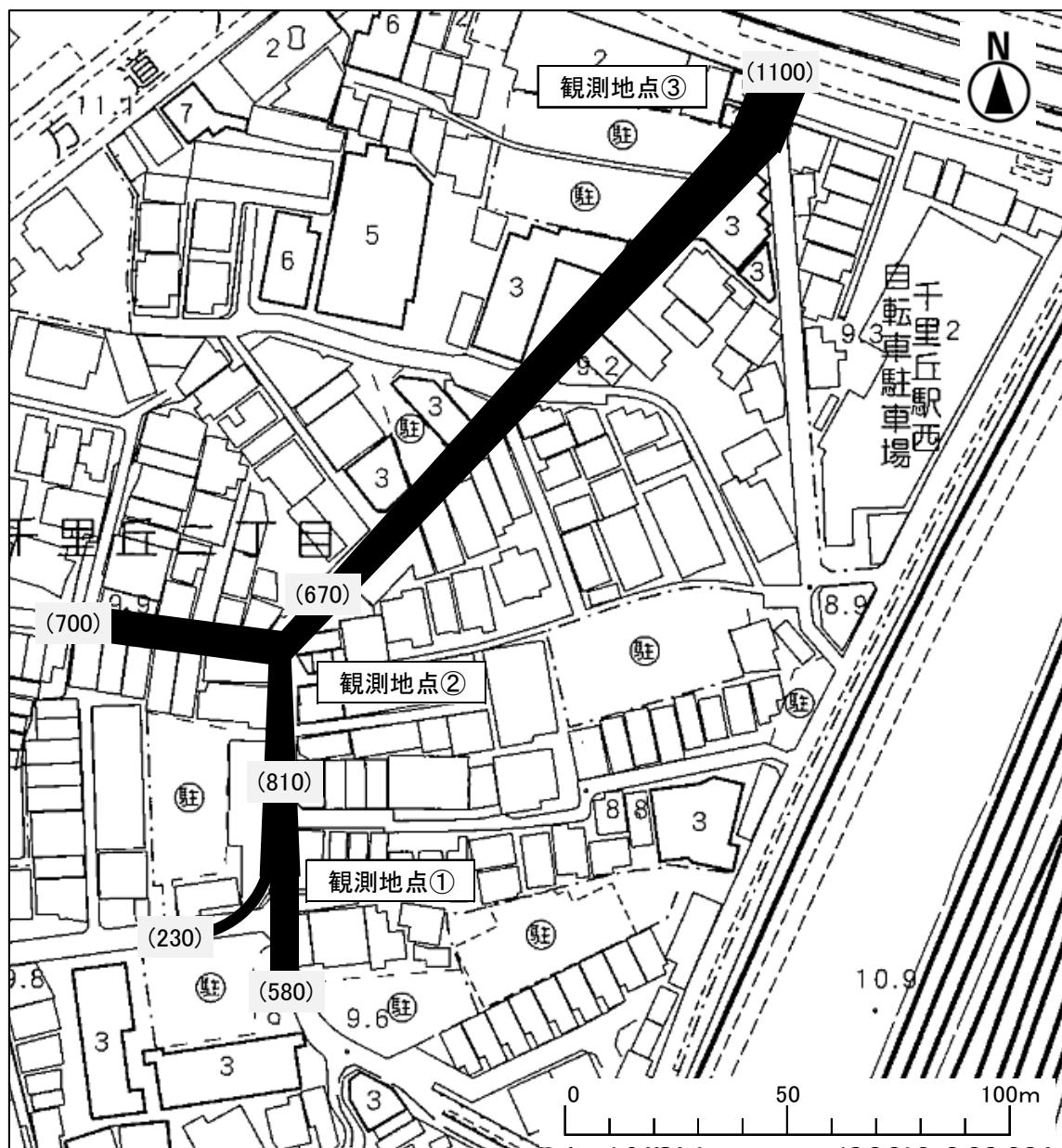


図2-6 ことぶき商店街 歩行者の流れ

4) 「ことぶき商店街」を通行する自動車交通量

「ことぶき商店街」は、北側から南への一方通行規制はあるが自動車の通行は可能である。

「ことぶき商店街」北側(観測地点③)から 124 台の自動車が通行しており、観測地点②では(府)大阪高槻京都線方向から 98 台の自動車が合流し、観測地点①では 222 台の車が通行しており、特に観測地点②から観測地点③に掛けては 3 m 程度の狭小幅員でありながら、自動車の通行が多くなっている。

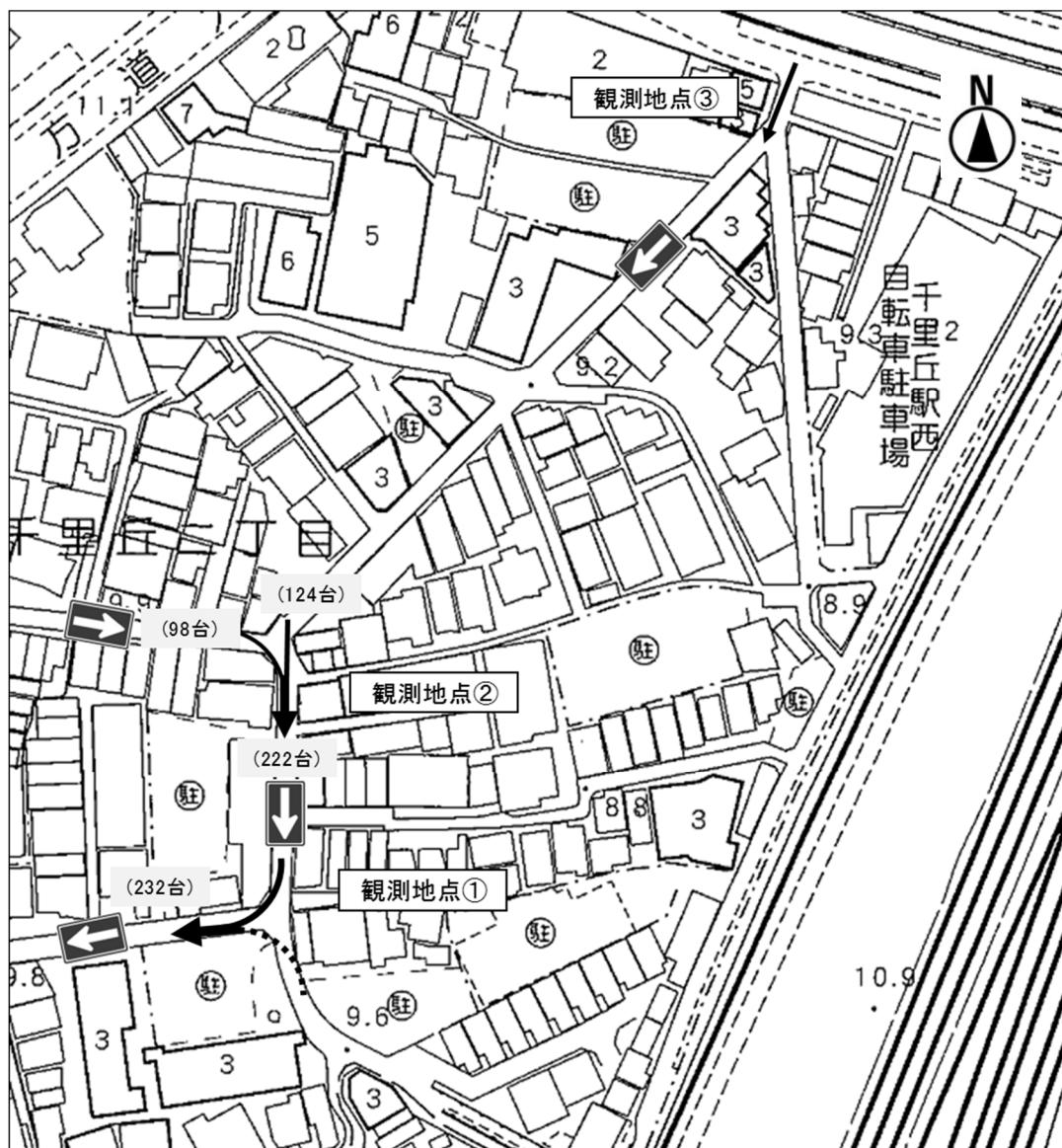


図 2-7 ことぶき商店街 自動車通行量

②千里丘商店街

●経年変化（調査結果）

「千里丘商店街」は、千里丘西口地区の千里丘1丁目内に位置する商店街である。

道路幅員は4m程度と狭小幅員でありながら、自動車の通行が一方通行規制があるが可能である。

通行量は平成16年をピークとし、その後は増減を繰り返しているが、相対的には減少傾向にある。

前回調査時と比較すると54人の通行者が増加しているが、ピークの平成16年と比較すると約250人の減少となっている。

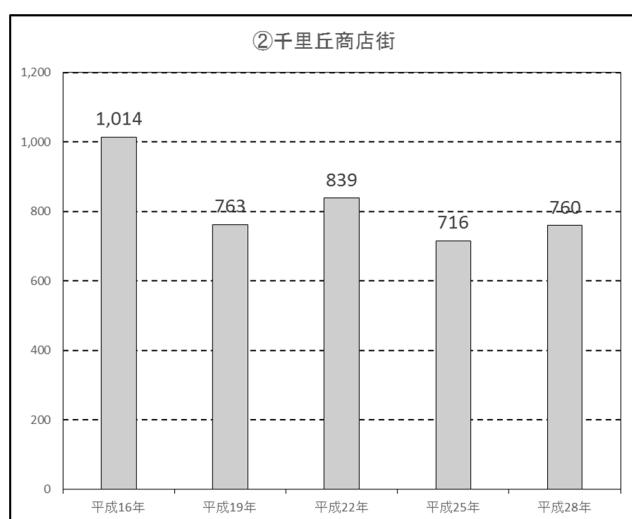


図2-8 千里丘商店街 通行量経年変化



写真 千里丘商店街（JR千里丘駅西口より）

●予備調査（通行流動簡易把握）結果

「千里丘商店街」周辺の通行量をみると、北側断面で北向き通行量760人、南向き通行量514人の通行者があり、北へ向かう歩行者が多くなっている。

北向き、南向きの歩行者の殆どは、JR千里丘駅方向からの通行者となっている。

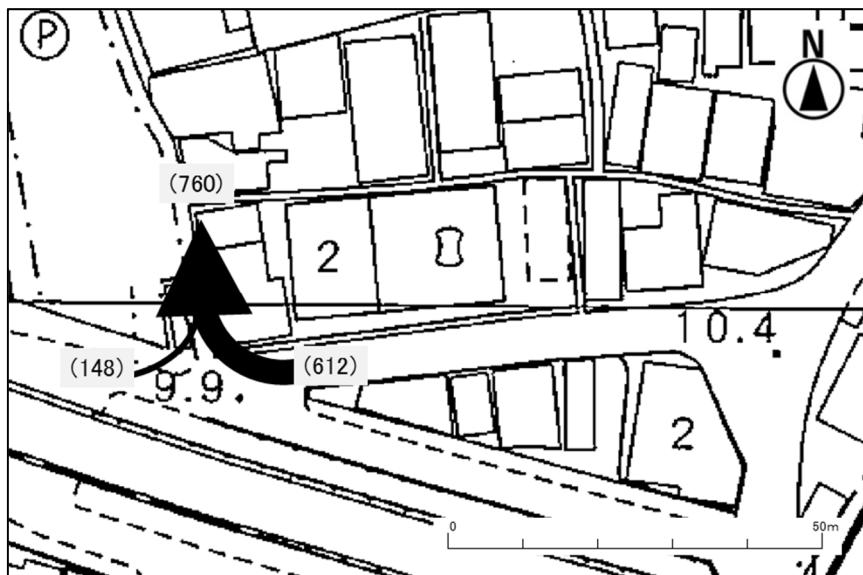


図2-9 千里丘商店街付近流動図（北向通行）

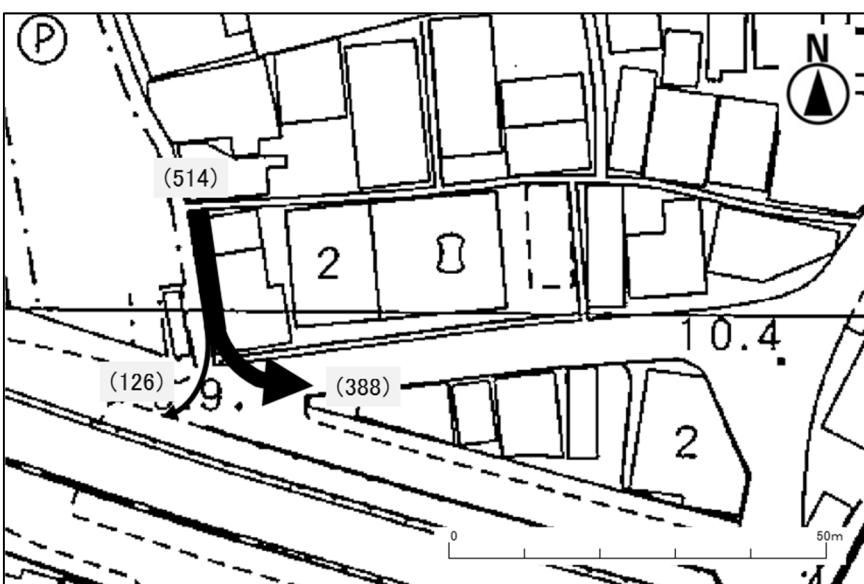


図2-10 千里丘商店街付近流動図（南向通行）

(2) 千里丘東口地区

千里丘東口地区は図2-11に示すJR千里丘駅東側に位置する「フォルテ摂津2階出入口付近」と「フォルテ摂津(1階)周辺」で形成された地区である。

通行量の過去10年の経年変化をみると、平成19年から平成22年がピークとなつており、その後は減少傾向となり、千里丘西口地区とほぼ同様な傾向となっているが、平成25年(前回調査)から今回調査に掛けての減少幅が大きくなっている。

今回調査、調査時の天候が荒天であったことが影響していると考えられる。

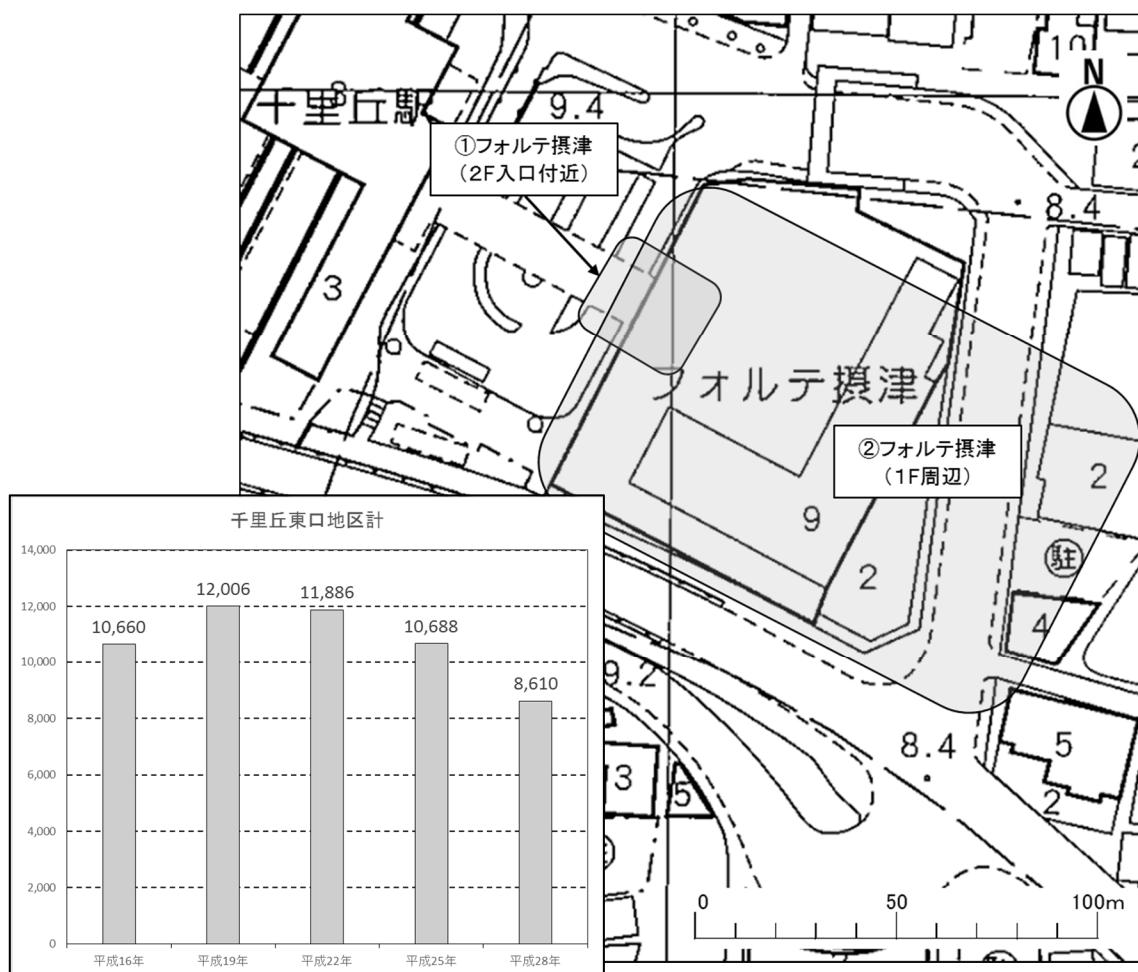


図2-11 千里丘東口地区位置図と通行量経年変化

① フォルテ摂津（2階）

● 経年変化（調査結果）

フォルテ摂津はJR千里丘駅東側に立地し、2階はJR千里丘駅と連絡橋で接続している。

経年変化をみると、平成16年以降減少傾向にあったが、今回調査では一転増加となり、過去10年の調査結果では一番多い通行量となっている。

これは、調査当日の午後から荒天となり、晴天時はJR千里丘駅から直接ロータリー等に向かう人が、連絡橋を渡りフォルテ摂津（2階）へ迂回したことが一つの要因であると推測される。

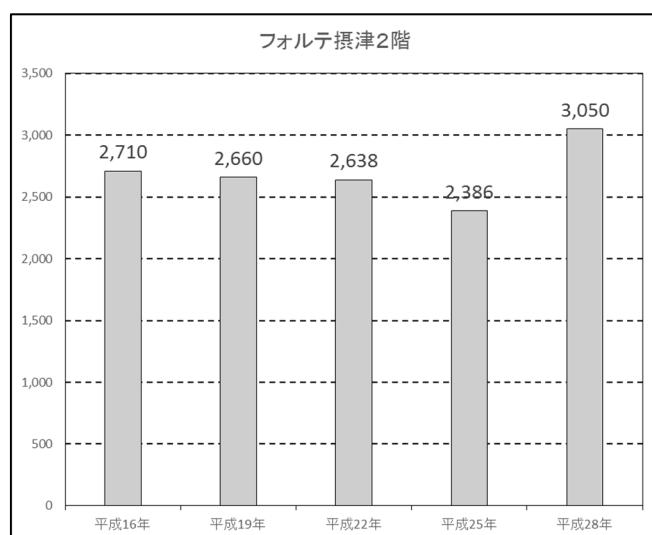


図2-12 フォルテ摂津（2階） 通行量経年変化



写真 フォルテ摂津（2階）入口

●予備調査（通行流動簡易把握）結果

1) JR千里丘駅方面からの人の流れ

JR千里丘駅方面から 2階連絡通路を通りフォルテ摂津方面へ向かう人の流れを図2-13に示す。

JR千里丘駅方面からは 3050 人の通行量があり、約 7割はフォルテ摂津 2階入口への流動となっている。

次いで左（北）方向への流れが多くなっているが、一部はフォルテ摂津入口にあるチケットショップへの流動が多いことが確認され、利用者の多くはJR千里丘駅方面へ引き返す状況であった。

これらの事から、JR千里丘駅方面からの人の流れの多くはフォルテ摂津への利用（通過）と考えられる。

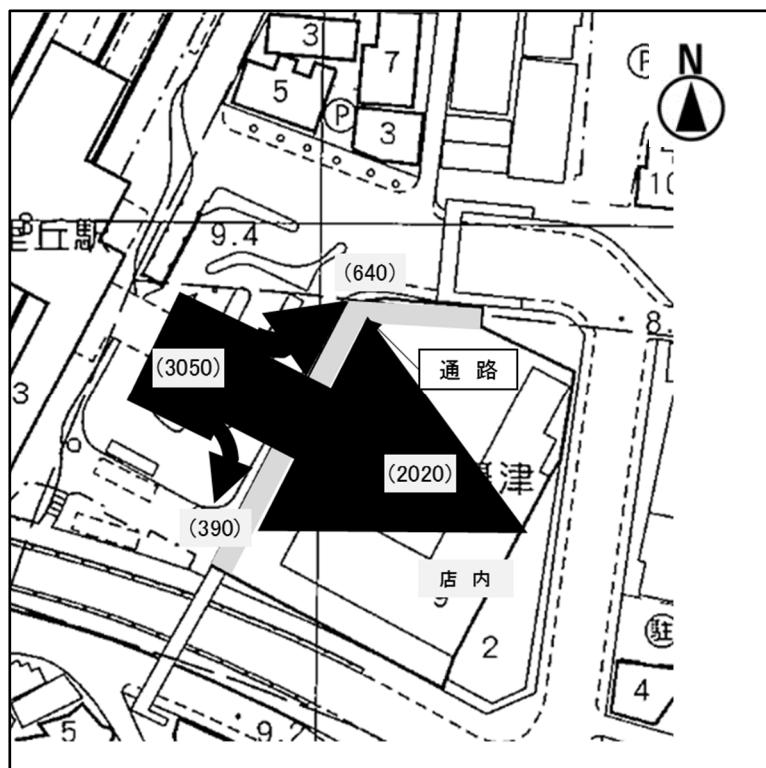


図 2-13 フォルテ摂津（2階）流動図（JR千里丘駅から）

2) JR千里丘駅方面への人の流れ

JR千里丘駅方面への人の流れを図2-14に示す。

JR千里丘駅への通行量は2708人となっており、JR千里丘駅からフォルテ摂津への通行量の8割程度となっている。

方向別でみると、フォルテ摂津2階出口からの通行量が1676人とフォルテ摂津へ向かう人と同様に約7割の通行割合となっている。

また、北方向からの通行量が700人と多くなっているが、フォルテ摂津北側には駐輪施設などがあることから、フォルテ摂津まで自転車を利用して、駅へ向かう歩行者が多いと考えられる。

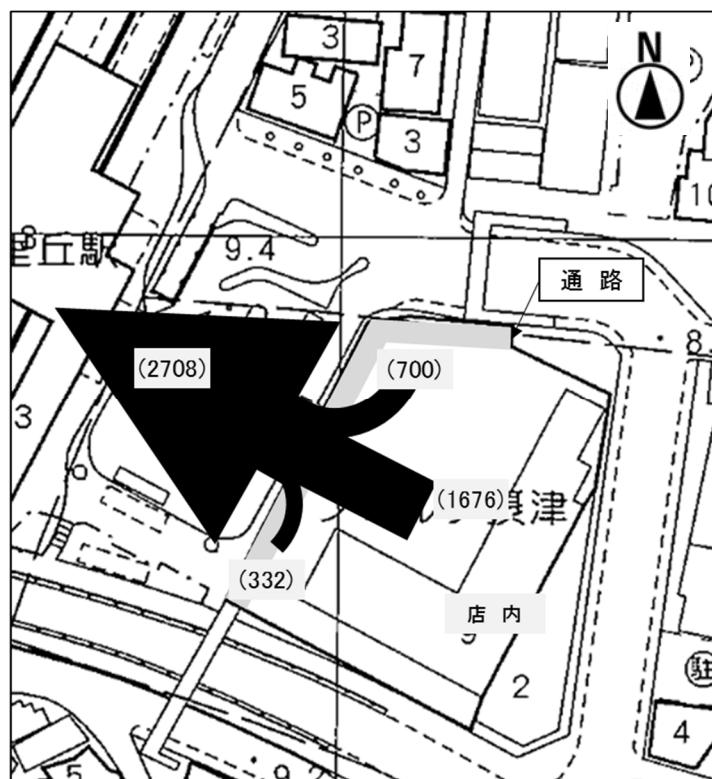


図2-14 フォルテ摂津（2階）流動図（JR千里丘駅へ）

② フォルテ摂津（1階）周辺

● 経年変化（調査結果）

当地区はフォルテ摂津（1階）周辺地域で形成された地区である。

経年変化（図2-15）をみると、千里丘東地区計と同様な変化を示しており、平成19年から平成22年にピークとなり、以降は減少傾向となっている。

今回の調査では前回の調査と比較すると約2800人の減少となっている。

調査当日は午後から荒天であり、フォルテ摂津内の商業施設等の利用やJR千里丘駅を利用する人が外出を控えたと思われ、前回調査時より大きな減少となっている要因と考えられる。

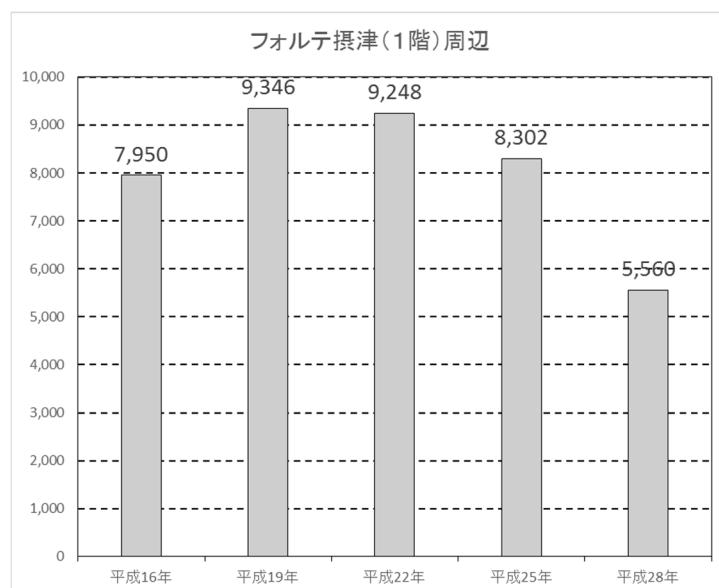


図2-15 フォルテ摂津（1階）周辺 通行量経年変化



写真 フォルテ摂津（1階南側）

●予備調査（通行流動簡易把握）結果

フォルテ摂津（1階）周辺の流動をみると、フォルテ摂津南側の（府）正雀停車場線沿道を東西に通行する人が多くなっているが、フォルテ摂津へ入店する歩行者は2割程度と少なくなっている。

フォルテ摂津西側の通路を利用する歩行者は558人であり、約4割の人がフォルテ摂津へ入店している。

フォルテ摂津南側、西側の合計をみると約3600人の歩行者が通っており、内フォルテ摂津へ入店する人は約700人と約2割程度と殆どの人が通過していることが伺える。

フォルテ摂津西側の出口を利用する歩行者は586人と入店する人よりも多く、フォルテ摂津（2階）で2020人が入店しているが、約25%の歩行者が利用している状況となっている。

これは、出口周辺にバスロータリー（乗降場）が立地しており、JR千里丘駅からバスを利用する歩行者が多いと考えられる。

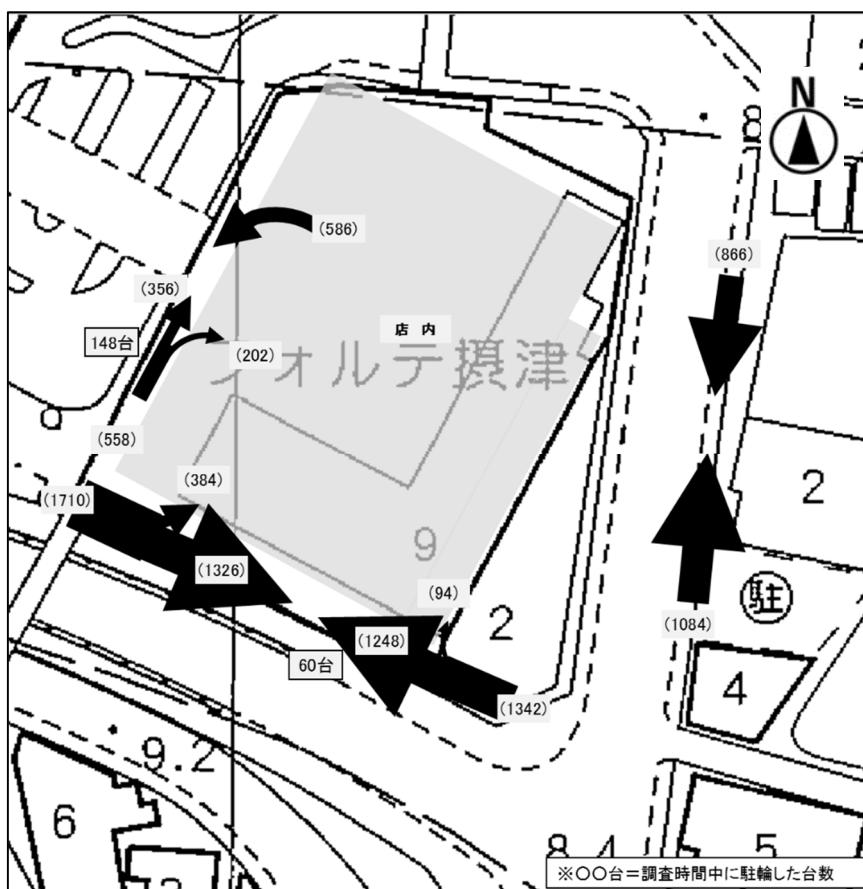


図2-16 フォルテ摂津（1階）周辺流動図

(3) 南千里丘地区

南千里丘地区は図2-17に示す阪急京都線南側に形成された地区である。

通行量調査は平成22年から始め、経年変化サンプル数は少ないが過去6年の経年変化をみると、前回調査（平成25年）がピークとなっており、今回は約2200人の減少となっている。

今回調査、調査時の天候が荒天であったことが影響しているものと考えられる。

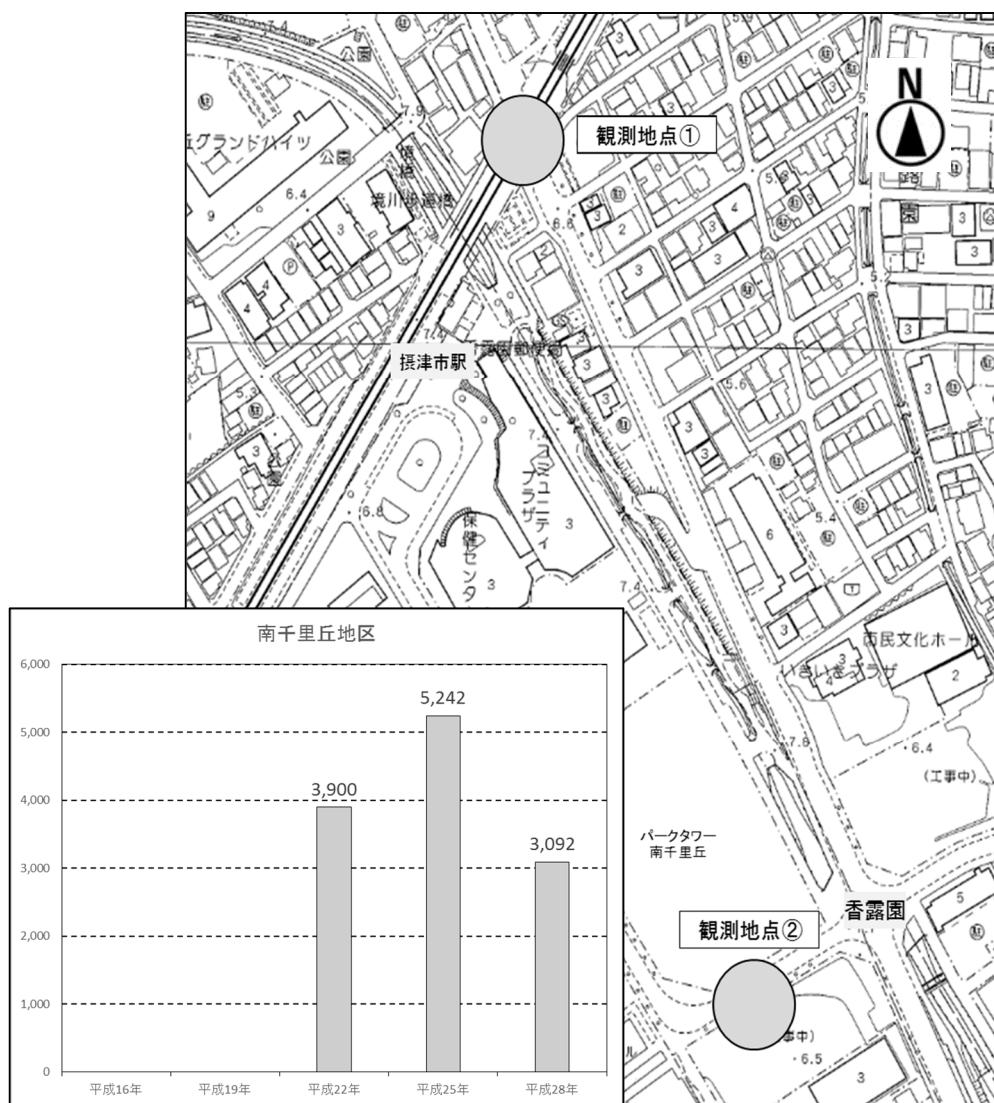


図2-17 南千里丘地区位置図と通行量経年変化

●方向別歩行者通行量結果

①阪急摂津市駅東踏切断面

1) 方向別通行量

阪急摂津市駅の東側に設置されている踏切は歩道が東西に整備されている。

歩行者の通行状況を見ると、東側歩道の南方向を目指す歩行者が最も多く、北方向を目指す歩行者が最も少なくなっている。

阪急摂津市駅と直結している西側歩道は北・南方向共に同程度の歩行者数となっている。

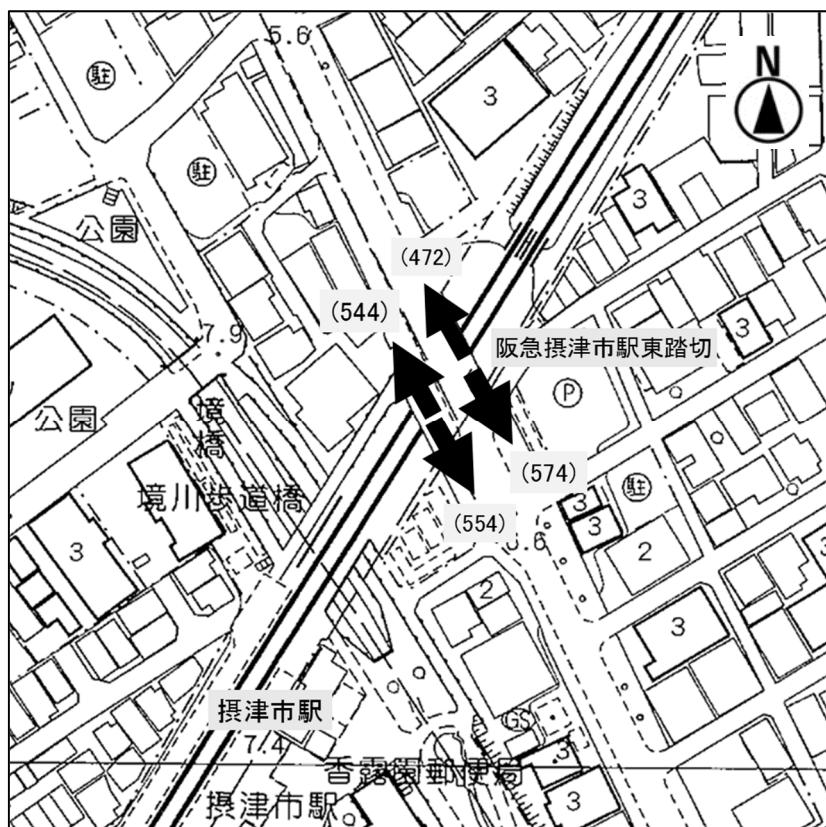


図 2-18 阪急摂津市駅東踏切断面方向別歩行者数

2) 断面通行量

阪急摂津市駅東踏切の断面通行量は図2-19、図2-20に示すとおりである。

東西に整備されている歩道の歩行者数をみると、阪急摂津市駅と直結している西側の歩道がやや多くなっている。(図2-19参照)

北方向、南方向の方向別でみると、南方向への往来が110人程度多い状況となっている。

断面通行量で見ると、東西歩道、北及び南方向との往来に極端に偏った利用はされていないことがわかる。

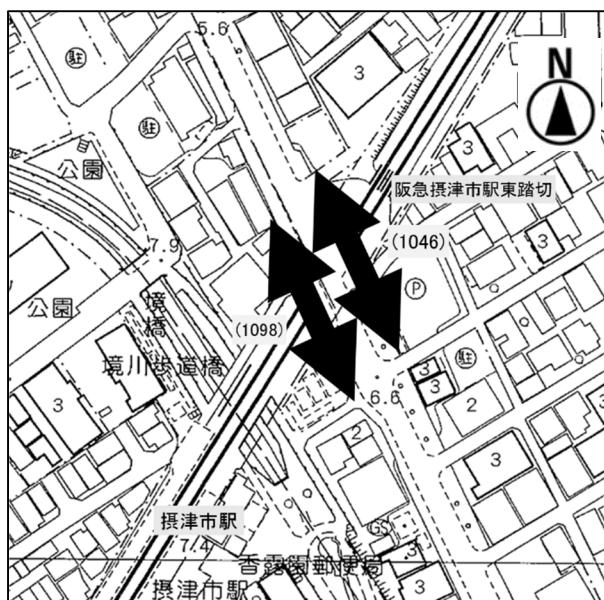


図2-19 断面通行量（東西歩道別）

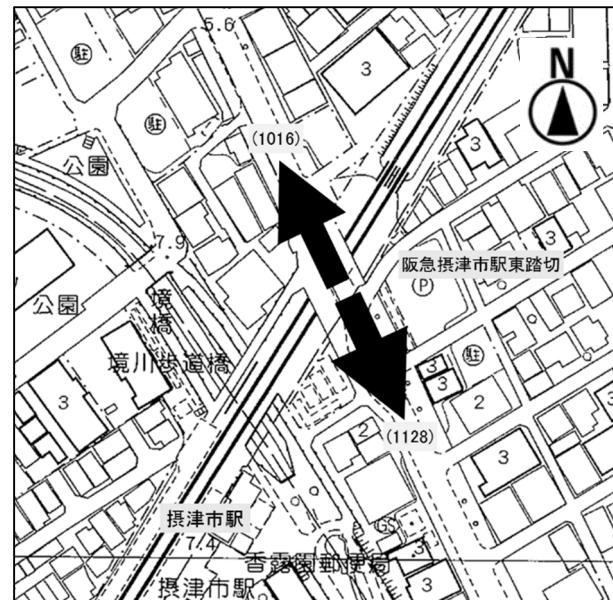


図2-20 断面通行量（南北方向別）



写真 阪急摂津市駅東踏切（東側歩道北方向より）